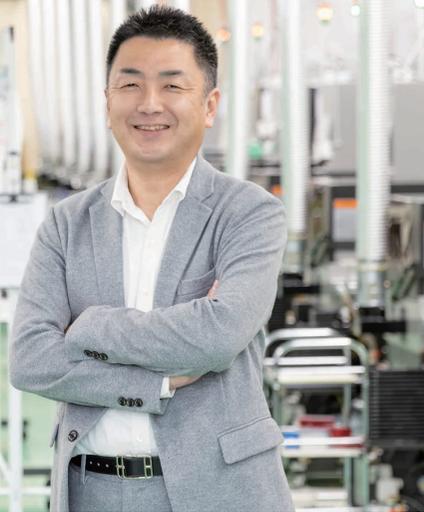


Owner Interview

株式会社 愛工舎

代表取締役 社長 早川 史洋 様



愛知県名古屋市に本社を構える株式会社愛工舎は、1934年の創業時より培ってきた世界トップレベルの超微細加工技術で、半導体産業の発展を支えている企業です。世界でも評価される技術とはどのようなものなのか。100年以上続く企業を目指し、事業体制の強化に力を入れる代表取締役 社長の早川史洋様にお話を伺いました。

90年の歴史で培った 超微細加工技術で世界に挑む

パソコンやスマートフォン、家電製品、自動車などさまざまな製品に使われ、今のデジタル社会に欠かせない存在となっている半導体。その生産を支えている企業の1つが、愛知県名古屋市の株式会社愛工舎です。

愛工舎が製造を手がけるのは、半導体の検査工程に必要な「コンタクトプローブ」です。金属製のピンとパイプ、スプリングで構成される針状の器具で、これを何百本も取り付けけた通電検査装置に半導体チップを接触させることで通電機能が正常か否かを確認します。スマートフォンなど電子製品の小型化に伴い、半導体はもちろん、その検査のためのコンタクトプローブにも、より精密で微細であることが求められるようになっていきます。

「当社が製造するコンタクトプローブの部品の多くは



コンタクトプローブは、CNC精密自動旋盤で製造した非常に微細な部品を組み合わせて完成する

直径1mm以下。中でも直径0.025mmクラスの超微細な加工を行う技術力は、世界的に見ても希少だといえます」

そう話すのは愛工舎の5代目社長である早川史洋様。岐阜県加茂郡七宗町にある同社の工場では、「CNC精密自動旋盤」と呼ばれるコンピューター制御による精密切削加工機を駆使することで各部品を製造し、さらに職人が手作業で組み立ててコンタクトプローブに仕上げます。顕微鏡を用いて行われる緻密な技術は、愛工舎の創業以来受け継がれてきたものです。

時計の製造から半導体分野へシフト 海外進出で売り上げを拡大

「当社は、時計店に勤めていた曾祖父が1934年に独立して、名古屋で『愛工舎時計製造所』を創業したのが始まり。当時は主に中国に輸出していたと聞いています」

その後、ゼンマイ式掛時計の生産を開始。1964年には大手時計メーカーとの合弁で岐阜に工場を設立し、OEMも手がけるようになったと早川社長は話します。

「ところが、1970年代に為替レートの変動相場制に移行したことで輸出が大打撃を受け、業績は赤字に転落。

時計事業から撤退せざるを得ない状況に追い込まれてしまいました。手元に残ったのは、時計の部品を作るのに使っていた金属加工機と職人の技術だけ。これで何ができるのだろうか悩んでいたときに、ある電子機器メーカーからコンタクトプローブ製造の相談を受けたのです」

コンタクトプローブは半導体以外の電子部品の通電検査にも用いられます。依頼されたコンタクトプローブは時計の部品より大きく、難なく対応できたといいます。受注も増えたことからコンタクトプローブの部品加工を事業の中心に据え、1994年には現社名に変更しました。

「半導体向けの超微細なコンタクトプローブを生産するようになったのは2000年頃からです。ただ、半導体市場はITバブルやリーマン・ショックなど景気の影響を受けやすく、業績は非常に不安定でした。そこで、これまでの部品加工に加えて組み立て受託も開始。さらに、私が社長に就任した直後の2014年からは、新規顧客を求めて海外の販路拡大にも力を入れるようになりました」

もともと、半導体産業でトップシェアを誇っていたのは日本でしたが、次第に台湾や韓国の企業が台頭。同社にとっては顧客が国内外に分散することでさらに売り上げを拡大し、現在は国内4割、海外6割の割合で販売しています。

「半導体がパソコンやスマートフォンばかりでなく、家電や自動車など幅広い製品に搭載されるようになったことも大きかったですね。さらにはコロナ禍でのリモートワークの増加や生成AIの普及も相まって半導体の需要が拡大。このような顧客の分散と用途の多様化により、景気の波に負けない経営基盤を構築することに成功

お客様ご紹介

株式会社 愛工舎

代表取締役 社長 早川 史洋 様

1976年愛知県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、自動車部品メーカーを経て2005年に愛工舎に入社。2014年12月より現職。コンタクトプローブの海外販路拡大に注力し、経営基盤の安定化を図る。旅行が好きで、愛工舎に入社する前に行ったチリ領のイースター島は思い出の地。2人の男児の父でもある今は、家族で楽しめる国内外旅行に行くことが多い。座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」。

<https://aikousha.com/>

【所在地】〒466-0826 愛知県名古屋市昭和区滝川町112-1
【事業内容】丸物微細精密切削加工品（NC加工品）の製造・販売、微細穴あけ加工品（MC加工品）の製造・販売、微細部品の組立受託、X線検査受託

しました」

100年企業を目指して 生産体制強化や人材育成に取り組む

経営の安定化においては、ボルテックスの「区分所有オフィス[®]」がリスクマネジメントの1つとなっています。

「今は本業が安定していますが、今後また何か起こるかわかりません。しかし、東京の事業用不動産であればレバレッジをかけた投資が可能ですし、いざとなれば売却もできるため有事への備えになります」

2024年に同社は創業90周年を迎えました。早川社長は100年、150年と永続する企業を目指して「超微細製造のスペシャルカンパニー」をビジョンに掲げます。

「そのためにもQCDS（品質・コスト・納期・サービス）のさらなる向上が重要です。2022年には岐阜の工場を拡張して、140台以上のCNC精密自動旋盤を設置しました。これだけの規模は国内ではほとんどないでしょう」

また、工場拡張に伴って従業員も若者を中心に増員。属人化の解消や部門の垣根を越えた連携に力を入れており、若者の雇用管理の状況が優良だとして厚生労働大臣から「ユースユール認定企業」の認定も受けています。

「従業員によく話すのは『謙虚であれ、誠実であれ』ということ。いくら高い技術を持っていても、傲慢な対応をしてはお客様に満足いただけません。当社が苦境のときにお客様に支えていただけたのも、誠実に業務に取り組んできたから。今後も世界中のお客様から『超微細製造なら愛工舎だね』と言っていただけるような、唯一無二の企業を目指していきたいと思っています」

ご保有物件のご紹介

VORT 半蔵門Ⅱ
5階
(千代田区・区分所有オフィス)

DATA	
【専有面積】	5階193.84㎡(58.63坪)
【最寄り駅】	半蔵門線「半蔵門」駅徒歩1分 有楽町線「麹町」駅徒歩4分 南北線・有楽町線・半蔵門線「永田町」駅徒歩10分
【構造・規模】	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 9階建
【総戸数】	9戸（事務所：9）
【築年月】	1988年6月 新築標準準適合
【敷地面積】	355.53㎡(107.54坪)
【延床面積】	2,397.41㎡(725.21坪)

(2019年5月撮影)

